



鉄鋼を取り巻く環境変化への対応

専務取締役

児玉 和哉

山陽特殊製鋼技報第15巻目の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

現在、BRICsを始めとする新興国や資源国などの経済発展に伴い、基礎素材としての鉄鋼の生産は平成20年には14億トンを超える規模に達しようとしており、さらに増加傾向にあります。これに伴ってエネルギーや鉄スクラップ、原料資材等の価格も世界規模で予想以上に暴騰しており、企業の舵取りが非常に難しい状況になっています。また、地球温暖化の進展により、CO₂削減や環境負荷低減など環境に対する貢献が必須となってきたことから、私共特殊鋼業界においても、世界的視野に立ったスピード感のある戦略的な施策が求められてきております。

この様に激動する社会情勢下において、弊社では本年度より第7次中期連結経営計画をスタートさせました。今次計画では、技術先進性の拡大などにより「高信頼性鋼の山陽」のブランド力を更に高め、企業価値の増大を図ることを経営基本方針に据えて、高品質の特殊鋼の安定的な供給を通じ、需要家の競争力向上に貢献することを謳っています。

技術先進性を証明する弊社の高清浄度鋼をベースとした「高信頼性鋼」の製造技術は、弊社の技術スタッフと現場作業員が長年にわたって努力を重ね、確立したものであり、「ものづくり」に従事する者の“技”と“精神”の融合が見事に結実したものとと言えます。こうした弊社の強みである製造技術の先進性をさらに磨きあげ、「高信頼性鋼の山陽」のブランド力を磐石なものにしてまいります。

一方、今後、世界的規模で生産量が増大すれば環境やエネルギー、資源への負荷も増大し、それが将来的な鉄鋼生産の制約につながることは避けねばなりません。そのため、鋼材を製造する上で環境負荷の少ない製造プロセスであることはもちろん、鋼材自身や部品製造プロセスにも、これまで以上に環境への負荷の少ない省エネルギー、省資源タイプのものが求められるようになり、こういう視点からの課題にも的確に対応していく必要があります。これらのニーズに対応できる私共の「高信頼性鋼」「高機能鋼」は、使用される部品の長寿命化、軽量化を通して省資源、省エネルギーに今後益々貢献するものと期待できます。

今後とも「高信頼性鋼」のより一層の普及と先進技術に貢献する高機能鋼の開発・実用化を、需要家と弊社の研究、開発、生産、営業各部門が一体となって取組み、需要家各位の競争力向上に貢献できるよう努力してまいりますので、どうぞ宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。